

第二協立病院

2019年度 新入職は44名



【看護部】

ご入職おめでとうございます。
理想である「信頼される看護師」を目指し皆さんと一緒に成長していきたいです。

【リハビリテーション科】

亜急性期から生活期に至るまで、質の高いリハビリテーション医療の提供に向け、ともに頑張りましょう！

【臨床工学科】

令和元年の社会人スタート、おめでとうございます！
仕事にもプライベートにも前向きな気持ちで共に苦楽を学びましょう！

【薬剤科】

入職おめでとうございます！
薬剤科は患者中心のチーム医療を目標に取り組んでいます。共に成長しましょう！

【医事課】

ご入職おめでとうございます！
何事も最初から完璧にしようと気負わず、先輩方と共に学び、共に頑張りましょう！

【栄養科】

ご入職おめでとうございます。栄養科も新たに職員を迎えました。在籍スタッフも心機一転、共に頑張りましょう！

【地域連携室】

ご入職おめでとうございます。患者様へのよりよい支援につながるよう、一緒に頑張りましょう。

【診療情報管理室】

ご入職おめでとうございます。
たくさん学び、実りある社会人生活を築いていけるよう、共に頑張りましょう！！



Smile通信 ~みんなが主役~



第13号

発行日 2019年 6月

ご挨拶

この春に入職された皆様、夏場に向かって、体調のコントロールは出来ているでしょうか。3か月経ちましたが、職場環境に大分慣れましたでしょうか。自らのスキルアップが可能になるにつれて、見る目、考え方も成長し、適応能力が発揮されるようになってきていることと思います。学生時代に思い抱いていたことと、職場の現実とのギャップを感じ始めて、どのように乗り越えてゆこう

かと思いつている方もあるかもしれません。

当院の新入職員オリエンテーションの際に、今年も「ブスの25箇条」と「桜、梅、桃」の話を紹介させていただきました。「ブスの25箇条」とは、宝塚歌劇団のロッカールームに張られている、どのようにすればブスになれるのかが書かれているものです。25箇条を全てマスターできれば、完全なブスになれること間違いなしです。一部でも達成できればブスに十分近づくことができるという優れたものです。ブスになりたいかかなりたくないか、決めるのは自分である。「患者さんの前でブスになっては絶対にならぬ！」と毎日思い続けることも必要なのではないのでしょうか。



次に、「桜、梅、桃」の話を紹介したいと思います。桜、梅、桃はバラ科に属しており、似たような花を咲かせます。よく見ると梅の花弁は丸く、桃は少しがたっており、桜は切込みが入ったハート型の花びらです。それぞれに個性があり、美しい花を咲かせて我々を楽しませてくれています。新人さん達の個性を育みながら、花の違いがわかるきめ細やかな観察力を養いつつ、人を愛する感性を培いながら、当院の理念である「信頼と良質な医療」を目指したいと思います。今後とも変わらぬご支援のほど、よろしくお願い致します。

院長 福田 能啓

わたくしは令和元年となる節目の年に、看護部長に就任いたしました。本年度に入職した新人スタッフと共に、成長できるよう努めてまいります。

当院は少子高齢化が進む社会情勢において地域の皆様に必要とされる病院を目指し、回復期リハビリテーション病棟・一般障害者病棟・緩和ケア病棟・透析センター・産科病棟・外来（産婦人科・小児科・内科）の医療・看護・介護を提供いたしております。

私たち看護部は病院理念「信頼と良質な医療」を軸に「豊かな心・心の看護」を理念に、患者様の「その人らしさを尊重した温かく質の高い看護・介護」を提供できるよう努めてまいります。他施設との連携を取り、病院に入院される患者様・ご家族様が満足していただけるよう努め、地域社会への復帰を支援いたします。

今後ともご指導いただけますよう、宜しくお願い致します。

看護部長 細谷 和子



新元号も定まり、平成は一つ昔の元号になりました。平成を振り返る番組を、よく放送されていますが、短いと思っていた平成にも様々な事が起こっていました。歴史というのはその様な一瞬一瞬の積み重ねで出来ているのだなと思います。茶道の言葉で、一期一会というものがあありますが、その時を大事にするという考え方は、こういった事にあるのかも知れません。

第二協立病院では新たな時代に向け、更に地域の皆様に、納得いただけるサービスの提供に貢献できるように、機器設備の導入や更新、充実した医療スタッフ、安寧の空間確保にと努力を続けていきたいと考えております。しかしながら、医療を取り巻く環境は、消費税の増税に伴って益々厳しくなっていきます。この苦境を乗り越えるには、皆様からの信頼が、唯一の救済の手段です。

今後とも皆様からの信頼を得られるように、第二協立病院は開かれた医療を展開していきたいと思っています。


事務長 内堀 之弘

～産婦人科より～

「産後ケア事業」について

少子化、核家族化、地域とのつながりの希薄化などの影響で、妊婦さん、産婦さん、褥婦さんやその家族を地域で支える力が弱くなってきており、妊娠・出産・子育てに関わる父母の不安や負担が増えてきています。さらに出産後は、体内のホルモンバランスの変化が大きく、また、慣れない育児への不安や疲れも重なり、情緒不安定になる方が多くおられます。そんななか、出産後の女性をサポートする「産後ケア事業」の取り組みが全国で広がっています。「産後ケア事業」とは、産後まもないお母さんと赤ちゃんの生活を支援するため、病院への宿泊や通所、または訪問によりお母さんの心身のケアや授乳、沐浴などの育児技術の習得に向け、ケアや相談ができるシステムです。

当院でも、平成30年12月より、産後ケア宿泊型(当院で出産後のお母さん)が開始となりました。利用されたお母さんからは、「色々な悩みや相談にも、親身に対応してもらえてよかったです」と感想をいただいております。今後は、通所型も開始する予定となっています。



赤ちゃんのお世話に
自信がもてない

手伝ってくれる人がいない

家に帰ってからの
生活が不安…

おひとりで悩まずに、
お気軽にご相談
ください。お産後
ゆっくり休みながら
赤ちゃんとの生活や
育児を学んで、
お家に帰ってから安心して過ごせます
ように…。

★産後ケアを受けられるには規定があります。ご希望の方はお問い合わせ下さい★

■脳卒中リハビリテーション看護認定看護師について



認定看護師の役割である3本柱として「実践」「指導」「相談」があり、
①脳卒中患者の重篤化を予防するためのモニタリングとケア
②活動性維持・促進のための早期リハビリテーション
③急性期・回復期・維持期における生活再構築のための機能回復支援に向けて関わっていくことを目的とした役割を担うことを求められています。
脳卒中を発症された患者様やご家族様は“突然”の出来事で抱えきれないほどの不安やストレスを感じていると思います。そういった患者様やご家族様に少しでも寄り添いながら看護ができればと思っています。

また、当院では社会復帰を目的とした患者様の退院支援や脳卒中の再発予防へのアドバイスについて、患者様一人一人の生きがいと一緒に考えながら様々な職種のスタッフと一緒に、職員の脳卒中領域に関する教育に向けた取り組みも行っていきます。写真のバッジをつけていますので見かけたらお気軽にお声かけください。

看護部 筒井 佳恵



【編集後記】

今年は、新入職員総勢44名を迎える事となりました。引き続き、職員一同一丸となって医療サービスの一層の向上に取り組んでまいりたいと思っております。今後も皆様方の御指導、御鞭撻のほど、宜しく申し上げます。

地域連携推進委員会 高橋 亮太

～着任のご挨拶～



協和マリナホスピタルより参りました、緩和ケア病棟看護師長の湯川綾子です。私が緩和ケアに携わった経験は、緩和ケアチーム・緩和ケア病棟を合わせると、約15年になります。そこで「緩和ケア」について、ご紹介させていただきます。
「緩和ケア」とは、「重い病を抱える患者やその家族一人一人の身体や心などの様々なつらさをやわらげ、より豊かな人生を送ることができるよう支えていくケア(日本緩和医療学会)」とされています。そのため、当病棟でも、症状コントロールの他、傾聴やリフレクソロジー、演奏会等、さらに飲酒やペットの面会(手続きは必要)も可能のため、他の病棟とは少し違う病棟です。しかし、元気に退院される方は少なく、永眠による退院がほとんどになります。ですが、病棟方針の一部に「決して座して死を待つための病棟ではなく、残された人生(余生)を与えるための病棟」とあるように、人生最期の大切な時期を、苦痛の中で過ごすのではなく、苦痛を緩和して「その人らしく」最期まで生きていけるように、スタッフ一同全力で支援している病棟が、緩和ケア病棟です。私も早く病棟を支える師長になれるように尽力致しますので、ご指導よろしくお願い致します。



腰痛や膝痛を予防しましょう！

今回も「キネステティック」の概念使った、腰痛・膝痛予防におけるコツをお伝えしたいと思います。第4弾のテーマは「環境」です。環境となると壮大なテーマになりますので、生活場面に沿った例を挙げて行きたいと思います。まず皆さんに質問です。普段、ベッドで寝ていますか？それとも布団で寝ていますか？さらに質問します。起き上がりや立ち上がりはベッドと布団、どちらが楽だと思いますか？
実は答えはありません。と言うより、「その人による」が正しいかもしれません。「楽」と感じる基準は、その人の習慣や文化などが基準になっていることが多いからです。しかし、それを言い出すと客観性に大いに欠けますので、エネルギーの視点から述べてみますと、布団よりベッドのほうが位置エネルギーが高いため(エネルギー保存の法則)、ベッドの方が少ないエネルギーで立ち上がれるはずなんです。ここで、「はず」とつけた理由が先述したとおり「人による」のです。要するに環境に上手く適応できていたり、環境を上手く利用している場合は「楽」に感じていると思われます。しかし、このような場合はどうでしょう？ベッドが高すぎることで足が床に着きにくく、足がつくまでベッドの端までいざる動作が必要となった場合、結果として布団よりもエネルギーを使ってしまうかもしれません。このように「上手く環境を活かす」、又は「目的を達成させる為に環境を変える」事が出来なければ屈辱通りになら無い事もたくさんあるのです。

最後に、私がこの事を一番気付かされたエピソードを紹介します。とある朝、荷物をたくさん抱えた状態で靴を履こうとしていたのですが、なかなか履けず悪戦苦闘していたところ、母から言われました。「荷物置いたら？」と。「環境を変える」ってそんなもんです。世の中には、それだけで防げた転倒事故もたくさんあったかもしれません。また次回も別の視点からお話し出来ればと思います。

リハビリテーション科 小原 健太郎



患者サービス向上委員会では、患者さんやご家族の皆さんから、広くご意見やご要望をいただき、病院運営改善に努めていくために、各階に「ご意見箱」を設置しています。お気づきの点がございましたら、遠慮なく「ご意見用紙」にご記入いただき、ご投函ください。ここでは、皆さんからいただいたご意見について、本院にて掲示・ご回答差し上げたものを、ご紹介させていただきます。個人的にご回答差し上げたものや、プライバシーの侵害、公序良俗に反するものと判断されるものにつきましては、掲示を控えさせていただいておりますので、ご了承ください。

ご意見

外来診察時に乳幼児を連れている際、自分たちがトイレをする時に困っています。

【回答】トイレ内にベビーチェアがなく、ご不便をおかけしました。南館1階トイレ内にベビーチェアを設置致しましたので、ご利用ください。

